

平成29年2月27日(月)

老球の細道308号

裁かれる審判

会津バスケットボール協会 室井 富仁

16日の朝日新聞に次のような記事が掲載された。

【サッカーのJリーグでは今季から、試合終了後に審判側と両チームの代表者が一緒になって判定を検証することになった。勝敗を分けたPKや退場を巡る判定の正誤など、踏み込んだ議論をする。審判側はこれまで、個別の判定への見解を示してこなかっただけに、世界的にも珍しい試みだ。

対象となるのはJ1～J3の全試合。試合全体を管理監督するマッチコミッショナー(Bリーグではゲームディレクターに当たる)の立会いの下、担当した審判は直接参加しないが、審判を評価する審判指導員が審判から判定の根拠を聞いた上で審判側代表として参加する。両チームからは社長などのチーム代表者が席に着く。

判定や試合結果が覆ることはないが、判定の妥当性や正誤について協議する。それによって、審判側とチーム側がコミュニケーションを深めながら、ルールや判定への理解を深め、試合の質を高める狙いがある】

今はサッカー界の動きが即バスケットボール界へ波及する。審判は今までゲームを裁く立場にあったのが、映像機器の導入によって大きく様変わりしてきた。そこにプロ化の流れが影響し、勝敗に対する意識が極度に高まり審判のジャッジに対して過敏に反応するケースが増えてきた。トップリーグのゲームを見ていても、審判に対するクレームや不服、不満が雨嵐である。昨年はレフリーがミスジャッジをしたということで、あるチームが担当のレフリー個人を裁判所に告訴するという前代未聞の事件が起きた。また、試合中の乱闘によって起こった退場者の把握が不十分だということで、審判が謹慎処分を受るという事件もあった。審判受難の時代である。

サッカーはイギリス発祥のスポーツで、ジェントルマンがプレイするからレフリーは1人で十分。バスケットボールはアメリカ発祥のスポーツだから多民族、多宗教のため何をするかわからないから2人と決められた話は遠い昔。今では審判の人数はプロバスケットボールでは3人が常識。NBAでは今年から下部リーグのDリーグにおいて「審判4～5人制」への試験導入が始まっている。3人でも正しい判定が困難になってきているのか。

現在では多くのスポーツでリプレイによるビデオ判定加わっている。一度レフリーが判定したジャッジでもビデオ判定によって覆されることは日常茶飯事になった。これによってレフリー批判のきっかけになる懸念も起こる。2003年に発行された生島淳著『スポーツルールはなぜ不公平か』(新潮選書)では「審判が裁かれる時代が到来した。ビデオによるリプレイの文化が育ったため、審判は誤審を指摘されるのが避けられない。そうならば必然的にステイタスは下がり、尊敬は失われる。審判への暴力も珍しくなくなった。経済的にも必ずしも恵まれているわけでもないし、このままでは誰も審判のなり手がなくなってしまうのではないか。審判の保護が21世紀のスポーツの大きなテーマになりそう」

審判をリスペクトするという事はスポーツマンシップの条件の一つである。「審判の裁かれる時代」になったといってもリスペクトすることを忘れてはいけない。そうしないと審判の後継者は育たないし、スポーツマンシップの育成にもつながっていかない。